

自然に罪が功に勝るものはない

これを裏付ける端的な例の一
つが、乳児に外で日光浴をさせ
ることです。乳児に与える母乳
(牛乳)に欠けている唯一の栄
養素がビタミンDです。従つて
別の形でビタミンDを補わない
と健全な発育が妨げられ重大な

例年この時期になると腹立たしい思いに駆られます。日光の紫外線を防ぐさまざまな商品(UVカット)を宣伝するついでに、紫外線に当たると大変なことになると声高に言い始めるからです。マスメディアを乗っ取ったかのごとき宣伝攻勢の甲斐あって、今や殆どの人が紫外線は悪玉と信じて疑わないほど洗脳することに成功したようです。しかしちょっと待ってください。人知を超えて完璧に作られている自然界に不需要なものなどあるでしょうか。そんなものは絶対にありません。それは紫外線と同じはずです。

しかしその後に日光浴だけが予防手段になることが明らかにされ、今では広く用いられるようになりましたのです。

紫外線で変性した人工物の害は紫外線の害でない

前述したように紫外線は私たちにとってなくてはならないものですが、人工的に作られた物にはしばしば相当の悪影響を与えます。しかしこれをもつて日光が悪いかのように意図的に歪曲し、脅迫に近い宣伝を繰り返

支障を来します。それを防ぐ自然の摂理が紫外線を浴びればビタミンDが出来る仕組です。しかし文明の進歩は私たちと自然との関係を希薄にし、乳児の生活の場から摂理に反して日光を遠ざけました。そのためヨーロッパを中心にくる病が多発する事態を招きました。

自然から遠ざかるだけ健康を失つた

日光に親しめば健康に役立つ

サンモア光線協会
サンモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

すことで紫外線悪玉説を流布し、人の健康を阻害するとなったら看過し難いことです。

発行所
〒153 東京都目黒区目黒
4-6-18

年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

原因になつたためですが、社会的に信用されている大企業が曖昧もなく紫外線そのものが原因であるかのごときすり替えの宣伝をするのですから、一般の人々が騙されるのもやむを得ないことがとも知れません。

田光を浴ひれば風邪を
引かない

す。それ故、この一事をとつても、日光浴が全ての人に有用なことは明らかであり、いたずらに逃げ回るのは決して得策でないことが分かります。

このよううちに私たち自身にとても日光浴は大切なものです。ほんの少し注意がります。それは自然と疎遠な暮らしをしている人ほど紫外線に徐々に皮膚を慣らすようにすることです。

多くの現代人は衣服を身に着け殆ど屋内で暮していますので、紫外線に対する皮膚防護層がな

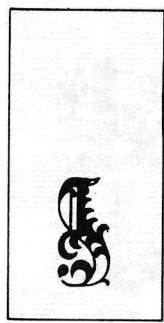
日光を浴び紫外線を浴びてその恵みを享受すれば、必ず健康に役立ちます。その一つの根柢が紫外線のビタミンDの生成作用にあることは間違ひありません。ビタミンDが母乳のような卓越した栄養源にすらないことは既に述べましたが、このことから容易に思い浮かぶように殆どの食品はビタミンD欠乏食です。それ故、この一事をとつても、日光浴が全ての人に有用なことは明らかであり、いたずらに逃げ回るのは決して得策でないことが分かります。

このように私たち自身にとても日光浴は大切なのですが、

えてください。ビタミンDの前駆物質のプレビタミンD（7-デヒドロコレステロール）は脂肪とともに皮内にあり、これが本物のビタミンDになるには紫外線の作用を利用して化学反応を起こす必要があるからです。

太古の昔から人々は日光は健康に役立つと信じてきました。経験からよく知られた事実ですが、夏に海水浴をして十分に日光を浴びてビタミンDを蓄えておくと、冬になつて風邪を引かずになります。ビタミンDには腸でのカルシウムの吸収を盛んにして骨を丈夫にするだけでなく、さまざまな成人病を予防し、外敵から身を守る免疫の働きを強める作用もあるのです。

(五、六面に光線が免疫応答に与える影響について記載しました。)



病気の真の原因

病気になるのは、外因に内因が係わっている。感染症を例に述べれば、罹患するか否かは細菌等（病原微生物）の外因と抵抗力のあるなしの内因との関係で決まるが、眞の原因は細菌等より抵抗力の有無にある。抵抗力があれば、細菌等の中にいても発病しないが、抵抗力がないと容易に発病する。即ち感染と発病は別である。

風邪が流行っても、抵抗力が勝れば健康でいられるが、劣れば発病する。このように内因は病気と不可分な関係にあるが、感染症以外の病気も内因の欠陥が原因になる。

何が病気を治すか

病気になる、ならないだけでなく、病気が治るのも、一つの例外もなく、自分の身体の抵抗力の有無が関係している。結核や癌にかかっても、抵抗力のため自然に治癒し、自分でも病気になつたことに気付かないこともある。

このようすに抵抗力は病を防ぎ病を癒す最前線で活躍する頼もしい味方である。従つて抵抗力のない人が感染症になると、薬（抗生素）で体内に侵入した細

病気になるのは、外因に内因が係わっている。感染症を例に述べれば、罹患するか否かは細菌等（病原微生物）の外因と抵抗力のあるなしの内因との関係で決まるが、眞の原因は細菌等より抵抗力の有無にある。抵抗力があれば、細菌等の中にいても発病しないが、抵抗力がないと容易に発病する。即ち感染と発病は別である。

風邪が流行つても、抵抗力が勝れば健康でいられるが、劣れば発病する。このように内因は病気と不可分な関係にあるが、感染症以外の病気も内因の欠陥が原因になる。

病気になる、ならないだけでなく、病気が治るのも、一つの例外もなく、自分の身体の抵抗力の有無が関係している。結核や癌にかかるても、抵抗力のため自然に治癒し、自分でも病気になつたことに気付かないこともある。

に良い薬を飲んでも、本当の抵抗力は得られないのです。しかし人はこの事実を無視して段々と太陽光線から遠ざかる生活をするようになつたため、抵抗力を失つたのである。

昔、太陽光線のさまざまな作用を知らなかつた古代人は、その働きを本能的に察知して神と崇めた。無心な草木に向日性が

何か抵抗力を高めるか
太陽光線は抵抗力を高める上
で極めて重要である。自明なこ
とだが、太陽光線がなければ、
植物はどんなに肥料や農薬を与
えても育たないし、動物も生き
られない。人にとっても太陽光
線に代わるものではなく、どんな

菌を完全に殺せないため治らぬいのである。またこのようないは手術にも耐えられないのでも、名医もメスを持たないのである。最近、医学は進歩した、といふ威勢のいい掛け声をよく耳にする。しかし皆が健康になつて病弱な人が減ったとか、不治と言われた病気が治るようになり、病院も閑散としているとか、そう言つた話を聞くことはない。むしろますます人は虚弱になり、病院は大いに繁盛している。その原因の一つに健康を保ち病気を治す抵抗力の衰えがある。

サナモア(炭素弧光灯)の利点

光線は抵抗力を 高める

宇都宮 義直

- 源として太陽光線を使つてきた。が、夜間や曇天や室内などでは利用できない不便さがある。また大気汚染の塵埃は太陽光線の有効波長、特に紫外線を吸収し地上に届きにくくなつた。一方科学の進歩は十分な効力を持つ人工光線を可能にしたが、光線療法に用いる人工光線は太陽光線を再現するものが理想である。

この観点から、サナモアの優れた点を列挙しておく。

(1) 高純度のカーボン(炭素)を燃焼する温度輻射を利用しており、太陽光線の原理に最も忠実である。

(2) 太陽光線と同様に、赤外線、可視線、紫外線を連続スペクトルで放射する。

(3) カーボンの芯剤に入れる元素によって目的に応じ必要な波長を増量できる。

(4) 裸火であるから効率が低下しない。

(5) 他の光線治療器で同様な特性を持つものはない。

このように抵抗力を高める上で有効な太陽光線の波長を効率よく應用できるのである。

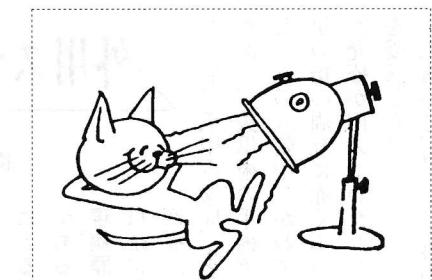
働に起因する膝内障と診断され、検査では異常はなく、過度の勞働に起因する膝内障と診断された。

選手、ここ十年余りはゴルフを楽しみ、日頃から体力には自信があったが、四、五日過ぎた頃より膝が痛みだした。それからも痛みは少しづつ強くなり、少し腫れてきたようなので専門医に診てもらつたが、レントゲン

1月17日の大震災の後、飲料水や生活用水の水運びは日々の暮らしの中で重要な仕事になつたが、エレベーターが動かない坂の上のマンションの四階に住む今回の治験例の主婦も自宅までポリタンクに入つた水を運び込む大変な労働を強いられた。高校時代はバーチャルボールの選手、ここ十年余りはゴルフを

症例 51歳 主婦
1月17日の大震災の後、

☆膝内障



— 治験例報告 —

身長162cm、体重58kg。

療法経過 Bカーボンで膝の前後に20分、膝の内側、外側から各10分、Aカーボンで腰20分、足裏20分、腹10分、背10分照射

たので、はじめだけ治療してから後は自宅で治療したいといつて来所した。

当分の間安静にするように言われた。

サナモア治療器は数年前ゴル

夫友達に勧められて購入してい

るようになり、坂道も以前と

変わらなく歩けるようになった。

神戸市 上野 健太郎氏報告

TEL〇七八一三三二一三五八

☆いぼ痔(内痔核)

脱肛

症例 50歳 男性
若い頃からいぼ痔に気付いていたが、大した苦痛を感じなかつたので気にしないでいた。

その後、年月を経るに連れ症状は段々と顕在化したが、最近になって排便後に肛門から脱出したいば痔が肛門に戻らなくなり、仕事中でも椅子に座つていらぬ間に立つたり横になつたりしないことには苦痛を我慢出来なくなつた。なお病院でも、いぼ痔が肛門から脱出したまま肛門に戻らないため脱肛を起

こしていると診断されている。

そのためこれまでいろいろな治療をしたが、症状は一進一退を繰り返していた。そんな折りに光線療法で痔病を治した経験を持つ会社の上司から、是非とも光線療法を受けてみなさいと強く勧められ来所した。

来所時、肛門の粘膜がめくれたようになり数個のいぼ痔が肛門から脱出して

いた場合の効果について一切の責任はもてませんので與々

もご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標B-Bのマークが必ずついています)

世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので與々

もご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商

標B-Bのマークが必ずついています)

全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセツトした

た著書「光線療法学」とともども愛用者各位の御信頼を頂き、

方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセツトした

免疫応答を調整する光線療法

・ その

生物恒常性の
中軸にあ

中軸にある免疫系

免疫応答を調整する光線療法

—自己防御機構の強化—

中球やマクロファージやNK細胞など)が非自己を排除する機構です。生体はこれらの免疫系を作動させ自己を防御します。ちなみに免疫の語源は疫(病気)を免れる、ということです。例えば機会あらば侵入しようとする細菌やウイルスなどの病原体から自己を防御するのも、自己の細胞が発癌因子の作用でがん化しても非自己として直ぐに排除して自己を防御するのも、免疫機構が働き監視しているからです。衆知のことですが、麻疹(はしか)に一度かかると二度とかからないのはウイルスに対する抗体が免疫学的記憶として保持されるからですし、予防接種で病気を防げるのはワクチンに含まれる抗原(不活性した病原体)で免疫抗体をつくれるからです。反対にエイズ(日本語訳では後天性免疫不全症候群)のように免疫機能が著しく低下する疾患(特に後述するT細胞が障害される)では、感染症や悪性腫瘍から自己を防御できなくなります。これは自己に有益に作用

己に不利益をもたらすこともあることを示しています。この現象をアレルギーと呼びますが、抗原刺激に対して過剰に反応する状態のことで、そのため過敏症とも言われます。加えて近年になって、免疫反応を起こさない（免疫寛容といふ）とされていた自分の細胞や組織を何らかの原因で非自己と認識してしまい、自己の成分と反応する抗体（自己抗体といふ）を生成し、自己の組織を障害することが明らかにされました。その結果として起くる病気を自己免疫疾患と総称していますが、さまざまな病気の病因と深く関わっています。

免疫応答の機作

免疫応答は生命現象の根幹に関わる最も重要なものの一つですが、この機能を担当するのは白血球です。

その主なものは、

1. 単球・マクロファージ
2. T細胞
3. B細胞
4. キラー細胞（大顆粒白血球）
5. 好中球

であり、それぞれ独立して、あるいは連携して機能します。

ところで免疫系が作動するには、体内にあるものが自己なのか非自己なのかを判別しなければなりません。その役目を果たすのは単球と呼ばれる白血球から分化するのが主体と見なされているマクロファージと呼ばれる作用を有する細胞です。この細胞は大食食細胞とも言われますが、何でも細胞内に取り込み、非自己の場合は食殺菌や消化処理などによって排除しようとしますが、相手が手強く排除できないと、その抗原情報をT細胞群のヘルパーT細胞に伝えます。

T細胞群には免疫系の中軸としてさまざまな機能を分担すすが、T細胞が含まれています。ヘル

PAR-T細胞はその一つですが、マクロファージによって提示された抗原情報を処理して、抗体生成を手助けする役を担っています。即ちヘルパーT細胞はマクロファージから伝えられた情報をB細胞に伝達しますが、B細胞は抗体産生細胞に分化し、免疫グロブリンと呼ばれる抗体をつくります。これを液性免疫と呼びます。また抗原情報によって活性化されたT細胞の補助で、他のT細胞が抗体になる反応（感作T細胞という）があり、これを細胞性免疫と呼びます。この細胞性免疫を担うT細胞には、ウイルスに感染した細胞やガン化した変異細胞や体内に侵入した異物などを攻撃し排除する機能を持つキラーT細胞（細胞障害型T細胞）、細胞が活性化して產生する生理活性物質のサイトカイン（インターロイキン2やガンマ-インターフェロンやマクロファージ活性因子など）を放出して抗原を障害するDTH（遅延型過敏反応）エフェクターT細胞（サイトカイン産生型T細胞）があります。これらの反応は同じくT細胞から分化するサブレッサーT細胞と呼ばれる細胞によって過剰にならな

免疫応答の機作

免疫応答の機作

免疫応答は生命現象の根幹に関わる最も重要なものの一つですが、この機能を担当するのは白血球です。

その主なものは、

1. 単球・マクロファージ
2. T細胞
3. B細胞
4. キラー細胞（大顆粒白血球）
5. 好中球

であり、それぞれ独立して、あるいは連携して機能します。

ところで免疫系が作動するには、体内にあるものが自己なのか非自己なのかを判別しなければなりません。その役目を果たすのは単球と呼ばれる白血球から分化するのが主体と見なされているマクロファージと呼ばれる作用を有する細胞です。この細胞は大食食細胞とも言われますが、何でも細胞内に取り込み、非自己の場合は食殺菌や消化処理などによって排除しようとしていますが、相手が手強く排除できませんが、相手が手強く排除できないと、その抗原情報をT細胞群のヘルパーT細胞に伝えます。

T細胞群には免疫系の中軸としてさまざまな機能を分担すすが、この機能を担当するのは白血球です。

PAR-T細胞はその一つですが、マクロファージによって提示された抗原情報を処理して、抗体生成を手助けする役を担っています。即ちヘルパーT細胞はマクロファージから伝えられた情報をB細胞に伝達しますが、B細胞は抗体産生細胞に分化し、免疫グロブリンと呼ばれる抗体をつくります。これを液性免疫と呼びます。また抗原情報によって活性化されたT細胞の補助で、他のT細胞が抗体になる反応（感作T細胞という）があり、これを細胞性免疫と呼びます。この細胞性免疫を担うT細胞には、ウイルスに感染した細胞やガン化した変異細胞や体内に侵入した異物などを攻撃し排除する機能を持つキラーT細胞（細胞障害型T細胞）、細胞が活性化して產生する生理活性物質のサイトカイン（インターロイキン2やガンマ-インターフェロンやマクロファージ活性因子など）を放出して抗原を障害するDTH（遅延型過敏反応）エフェクターT細胞（サイトカイン産生型T細胞）があります。これらの反応は同じくT細胞から分化するサブレッサーT細胞と呼ばれる細胞によって過剰にならな

(五ページよりつづく)
いように抑制されます。

キラー細胞（大顆粒白血球）
は機能的にはマクロファージと

共通の性状を持ち、NK細胞、
K細胞、LAKなどがあります。

NK（ナチュラルキラー）細胞
は腫瘍細胞などの標的細胞を抗

体で感作することなく直接破壊

しますので、生体内で細胞が自

然に悪性に転化した場合などに

は重要な働きをしています。K

細胞は抗体の結合した標的細胞

を障害する（抗体依存性細胞障

害）細胞です。LAKはT細胞

の産生するインターロイキン2

によって幅広い種類の腫瘍細胞

を障害できるようになる細胞で

す。

好中球は、化膿菌を食殺菌す
る重要な細胞です。好中球は細
菌を捕捉すると、取り込んだ細
菌に殺菌作用を持つ酵素を作用
させて殺菌します。

**光線を浴びると
免疫力がアップする**

免疫応答が生命維持の基礎を
なす生体恒常性を維持できない
と、感染症、ガン、アレルギー
一性疾患、自己免疫疾患などに
かかり易くなることは前述しま
したが、間接的にはあらゆる病
気の経過に悪影響を与えると言

つても過言ではありません。従つ
て免疫応答を維持する機構を強
化することは極めて重要なこと
です。しかし医学は未だにこの
目標を実現し得る手段を持ち合
わせていません。この目標を達
成しようと思うなら、余りに常
識的なことと言われるかも知れ
ませんが、日頃から健康に気を
付けることしかありません。そ
れには地味であっても日常生活
で食事や運動に留意し、年間を
通して光線を浴びることを忘れ
てはなりません。何故なら、文
明社会に住む現代人の多くは光
線の大恩を忘れ、光線から遠ざ
かった弊害に気付こうとしませ
んが、自然の摂理は光線が免疫
応答を維持する上で不可欠な働
きをする仕組をつくっているか
らです。

光線が免疫応答に果たす役割
については、次号で改めて述べ
ますが、要約すれば光線によ
て生成されるビタミンDやビタ
ミンDが免疫細胞に及ぼす
作用を介して、光線は免疫力の
アップに深く関わっています。

従って、光線療法を常に活用す
ることで免疫応答が正常に働く
ように調整し、免疫機構を強化
しておくことは、病に侵されな
い健康な身体をつくるだけでな
く、病を癒す本当の力を与えて
くれるのであります。

（本紙の無断転用を禁止します。）

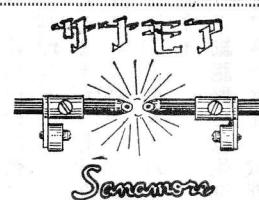
協会では、会員を募集しております。
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会TEL(03)3793-5218
ビタミンDは胸腺皮質細胞から
胸腺髓質細胞への分化を促進す
ることによってT細胞の成熟を

促し、ヘルパーT細胞には直接
作用してその機能を賦活します。
またT細胞が產生するサイトカ
インのインター・ロイキン2やイ
ンターフェロンを介して免疫を
担当する細胞の機能を調整し、
免疫系の機能を全般的に高めま
す。ビタミンDには単核芽球か
ら単球、マクロファージへの分
化誘導を促進する作用もありま
す。なおビタミンDの欠乏でカル
シウムの吸收が阻害されると、
免疫を担当する細胞の細胞内カル
シウム濃度が上昇して本来の
機能が発揮できなくなるため、
免疫系にさまざまな悪影響を及
ぼし、自己防御機構を弱体化さ
せることにつながります。それ
故、光線の不足が原因で免疫応
答の機構に異常をきたし、それ
が原因で病気になるとしたら、
文明病の一種と見なすべきでしょ
う。

このように光線で生成される
ビタミンDが免疫細胞に及ぼす
作用を介して、光線は免疫力の
アップに深く関わっています。
従って、光線療法を常に活用す
ることで免疫応答が正常に働く
ように調整し、免疫機構を強化
しておくことは、病に侵されな
い健康な身体をつくるだけでな
く、病を癒す本当の力を与えて
くれるのであります。

サナモア光線協会
医学博士 宇都宮 光明



サナモア光線協会

趣意書